

2025年8月24日 礼拝説教要旨
 ヨハネによる福音書講解説教49「ことばの内にある命」
 エゼキエル37:4~6、ヨハネ8:48~53

ユダヤ人たちはイエスさまに言いました。「あなたはサマリア人で悪霊に取りつかれている」（48節）ここでユダヤ人たちはイエスさまを二つの言葉で非難しています。一つは「サマリア人」もう一つは「悪霊に取りつかれている」。二つとも的外れですが、どうしてここで突然「サマリア人」という言葉が出てきたのでしょうか。イエスさまはサマリア人ではありません。この言葉の背景にはユダヤ人とサマリア人の対立があります。もともと同じ民族でしたが、国が北と南に分かれまして、それからお互い憎しみあうようになりました。ですから今日のところも相手を罵る感覚でイエスさまに向かって「このサマリア人！」と言ったのでしょうか。

これに対してイエスさまがどのようにお答えになられたのか。「わたしは悪霊に取りつかれてはいない。わたしは父を重んじているのに、あなたたちはわたしを重んじない」（49節）ユダヤ人たちは二つの言葉「サマリア人」「悪霊に取りつかれている」で攻撃しました。けれどもイエスさまはただ「わたしは悪霊に取りつかれてはいない」とおっしゃっただけで、サマリア人と言われたことを否定されませんでした。このことについてアウグスティヌスは注解書の中で興味深い解釈をしています。アウグスティヌスは、「サマリア」という言葉がヘブライ語のシャモール（見守る）という言葉から来ていて、イエスさまはご自身が見守るお方であることを知っておられたと言います。そして詩編の御言葉「見よ、イスラエルを見守る方は、まどろむことなく、眠ることもない」（121:4）を引用し、さらにルカ福音書が伝える「良きサマリア人の譬え話」を引用します。強盗に襲われ重傷を負ったユダヤ人を通りかかった同胞のユダヤ人たち祭司やレビ人は介護しなかつたけれども、敵対していたサマリア人が介護したという話です。そしてイエスさまは「行って、あなたも同じようにしなさい」とおっしゃった（ルカ10:37）。イエスさまはサマリア人のように敵対しているわたしたちを見守り、助けるお方なのです。それゆえイエスさまはサマリア人と呼ばれたことを否定されなかった。

さらにイエスさまは、ご自身が悪霊に取りつかれていないことをここで説明しておられます。そのしるしとして「わたしは父を重んじている」（49節）と言われます。もし悪霊に取りつかれているなら、父なる神さまを重んじるようなことはしない。悪霊は神さまの栄光を求めず、その裁きに従順ではありません。神さまを重んじず、むしろ自分の栄光を求め、自分が神になって誰かを裁くようなことをするでしょう。それが罪の奴隸であり、悪霊の仕業なのです。それはこのユダヤ人たちの方ではないでしょうか。神の子であるイエスさまを重んじず、己の栄光ばかりを求め、人を裁くようなことをしている。そういうあなたたちこそ悪霊に取りつかれているのではないか。イエスさまはそのように彼らを批判されるのです。

そしてその悪霊に取りつかれた者の行き着く先が死であります。いみじくもここでユダヤ人たちはそのことを自ら明らかにしました。「あなたが悪霊に取りつかれていることが、今はつきりました。アブラハムは死んだし、預言者たちも死んだ」（52節）これはイエスさまが「わたしの言葉を守るなら、その人は決して死ぬことがない」とおっしゃったことに対して彼らが言った言葉です。あなたは決して死ぬことがないと言うけれども、アブラハムや預言者たちも最後はみんな死んだではないか。結局みんな死ぬんだ。ここにユダヤ人たちの本性があります。

人間が罪を犯して楽園を追放された時に神さまは言われました。「塵にすぎないお前は塵に返る」（創世記3：19）と。人間は罪ゆえに死に定められたものです。それは搖るぎない事実でしょう。けれどもそのようなわたしたちを命の中へ招き入れるのが神さまの救いです。イエスさまは言われました。51節「はっきり言っておく。わたしの言葉を守るなら、その人は決して死ぬことがない。」ここに聖書が伝える最大のことがあります。「決して死ぬことがない」多くの人々は死んだら終わりと考えて諦めている。でもイエスさまは諦めておられない。「決して死ぬことはない」とおっしゃる。もちろんわたしたちの体はいつか死ぬでしょう。でもそれは終わりではなく、そこには新たな命が備えられている。この死に定められた人生を命に転じる救いがイエスさまによって備えられているのです。

それが他でもないイエスさまの十字架とよみがえりです。それまでは死に向かう人生だった。死んで終わりと考えていた。でもイエスさまの中でその方向が変わるのである。わたしたちは自分の力ではそのように方向転換することはできません。岩が崖を転がり落ちるように、ただ死に向かって落ちていくだけです。けれどもイエスさまの中で、それが変わる。「わたしの言葉を守るなら」（8：51）「わたしの言葉にとどまるなら」（8：31）イエスさまという神さまの生ける命の言葉、十字架とよみがえりの救いの中にわたしたちを新たに生かす命が備えられています。パウロは次のように述べています。「今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。キリスト・イエスによって命をもたらす靈の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです」（ローマ8：1～2）

先ほどアウグスティヌスの解釈に触れて、ユダヤ人が悪意を持って言った「サマリア人」という言葉をイエスさまが否定されず、ご自身の中で受け止められ良い意味に変換したということを申しました。イエスさまがすべてを受け止めてくださる。そして死を命へと変換するのです。わたしたちの悪意を善意へ、悲しみを喜びへ転換する、まるで変換器（コンバーター）のようです。その大いなる変換こそ十字架とよみがえりでしょう。洗礼を受けてイエスさまに結ばれる時に、わたしたちの中に、罪に死に新しい命に生きるという決定的な変換が起こるのです。

その救いはわたしたちの人生を180度変えるでしょう。「アブラハムは死んだ、預言者たちも死んだ」とすべてを過去に追いやるのではなく、将来に向かってわたしたちを解き放つのです。昨晩、テレビでマイクロソフトの創業者ビルゲイツさんが出ていて日本の学生たちと対談していました。その中でルカ福音書の「多く与えられた者は、多く求められ、多く任された者は、さらに多くを要求される」（ルカ12：48）を引用されて、実業家はもっと社会貢献をすべきとして、今後30兆円もの財を投じて医療や子どもの貧困問題に取り組むと言わっていました。彼は熱心なキリスト者だそうですが、私利私欲、自分の栄光のために生きるのではなく、他者のために、過去の栄光ではなく将来のために、未来の子どもたちのために生きるように、キリストの中で人生が変えられていくのでしょう。わたしたちもまたイエスさまの中でそのように新しくされています。

天の父よ。死に向かって転がり落ちる人生です。けれどもあなたはイエスさまを与え、その十字架とよみがえりの御業によりまして、わたしたちの人生を180度方向転換してくださいます。どうぞイエスさまの中でわたしを新しくしてください。そのためにイエスさまはわたしたちを招いておられます。イエスさまの招きにお応えできるように導いてください。主の御名によつて祈ります。アーメン。